

【会情報】

【会員企業ご訪問：Vol145】

紀伊産業株式会社（大阪中央支部）

今回は西日本プラスチック大阪中央支部会の紀伊産業株式会社大阪工場の執行役員 大阪工場長 安井 隆様、総務課長 平井 康光様、製造一課長 中村 暢宏様を訪ねました。

本社住所	大阪市中央区本町 1-3-20
大阪工場住所	藤井寺市川北 2-2-4
電話	072-973-3221
FAX	072-971-2355
資本金	1 億 8,000 万円
創業	大正 14 年
成形機	射出成形機 80 t ~ 220 t 18 台 インジェクションブロー成形機 100 t ~ 250 t 3 台



経営理念を背にされる大阪工場長 安井様(右)、
総務課長 平井様(中)、製造一課長 中村様(左)

沿革

当社は、大正 14 年に朝鮮半島にて、米穀・薪炭を扱う商社として創業しました。

その後、昭和 15 年にベークライト成形工場を設立、今日のプラスチック事業の礎を築きました。昭和 23 年には大阪市にて会社を再開、昭和 27 年にプラスチック原料の販売を開始、昭和 33 年には大阪市福島区に射出成形及びビニール加工の 2 部門を開設、その後昭和 43 年にはプラスチック部門の業容拡大にともない、工場を大阪府藤井寺市の現在地へ拡張移転し、大阪工場としました。

平成 27 年には創業 90 年を迎え、大阪工場は今年 50 年を迎えます。大阪工場では、「よきものづくりを実現して、お客様に満足してもらう」というビジョンの下、工場傘下に金型設計や製作、各種治具の内製化が可能な金型課を配置、また増産に向けた



大阪工場外観

体制強化の為、工場の改修、成形機の増設を行っています。

その他の事業所としては、神奈川県に完成化粧品の生産を行う鴨宮第一・第二工場、グループ関連企業として中国大連に紀伊塑料有限公司、ベトナムに紀伊プラスチック有限公司、株式会社フロムコミュニケーションズや西日本ナーサリー耕業株式会社があります。

主な製造品

当社で製造している製品は、コンパクトケース・パウダー容器、ジャー容器、ダイレクトブロー容器、グロス容器などの化粧品容器・包装資材や化粧品販促、健康機器・光学機器・生活雑貨・カーケア用品・日用品など多岐に亘る商材の開発・生産を行っています。この内、化粧品容器を大阪工場にて製造、その他の製品については海外工場で製造しています。

また、2015年には販路拡大に向け自社ブランド商品「Pure」を開発しました。



自社ブランド製品「Pure」

自社の強み

大阪工場の強みは特徴的な「加飾技術」と長年培ってきた「センス」です。化粧品に欠かせない「美しさ」を追求する為、シルク印刷、ホットスタンプ、レーザ加工、インモールド加工、C-レーベル加工（成形品と装飾フィルムの複合化による加飾）等の幅広い表面加飾技術で機能性・装飾性における様々なニーズに対応しています。

また、射出成形機と加飾設備、品質検査装置（画像解析等による）を連結させ、成形→装飾加工→検査の工程を、工場内を移動させることなくその場で行う事で、円滑



製品仕上げの作業風景

かつ成形品質を担保出来る生産体制づくりに取り組んでいます。シルク印刷機や各種印刷機も別フロアに配置し、より質感の高い製品に仕上げることができます。

成形品に使用する金型に於いては、自社で金型を作製・メンテナンスできる加工機器および人員を揃えており、製品設計や品質維持に迅速に対応することができます。

このような当社の「加飾技術」と「センス」の融合によりお客様からの信頼を獲得

し、従来は、ほぼ1社に向けての製品でしたが、現在は多くの顧客に向けて製品を展開しています。また、設計担当者を東京分室に配置しており、ユーザー様のデザイン部門の方々の要望に対応できるよう努めています。

人材教育について

全社を挙げて人材開発に力を入れており、人材開発プロジェクトチームを立ち上げ、その一環として経営理念、社訓を行動指針として分かりやすく記した社内誌を2017年に作成、全社員に配布しました。

大阪工場では、ものづくりのベースは人であると考えています。しかしながら、100人のうち1人でも意識の違う人間がいれば品質は下がります。顧客の信頼を得る為に品質力は重要です。その為、当工場では、「教育」を「共育」と捉え、教わる側だけでなく教える側も成長し合えると考えています。また、新入社員に対しては、約半年間に亘り新入社員教育を実施、次代を担う人材の育成に取り組んでいます。



工場内の様子

※ 会社を訪問して ※

射出成形機と後加工機を連結させる生産体制を行っておられましたが、すべてを機械に任せるのではなく、より製品の「美しさ」を追求する為、人の手による作業も行われていました。化粧品という「美」を追求した商品を入れる容器を製造されている為、容器にも「美」を意識した工夫がされていると感じました。

常に生産設備・品質検査のブラッシュアップを進めるだけでなく、人に対しても、新入社員教育、新社屋建設からユニフォームに至るまで、社員のモチベーションアップを追求されていることが、生産能力や品質の向上につながることから、何事もおろそかにしない姿勢を感じました。

◎ありがとうございました
取材：事務局 矢野・吉田

※本記事記載の情報については、2018年2月23日現在のものとなります。

掲載希望の方は

事務局(06-6538-6100)までご連絡ください。